

震災に際して図書室の状況

鈴木 睦美

2011年3月11日午後2時46分、三陸沖を震源とする地震により仙台市を含む東日本全域は激しい揺れに襲われました。その後発生した津波及びその後の余震により、東北から関東にかけての東日本一帯に甚大な被害をもたらしました。

I. 地震発生時の図書室

仙台赤十字病院は、仙台市の中でも山側に位置する場所にあるため、津波の被害は免れました。しかし、何分も続く大きな揺れの中で、図書室では書棚に配架された書籍や雑誌は音を立てて崩れ、床に散乱し、壁に固定している本棚が倒れました。立っているのもやっとの揺れの中で、本棚から本が滑り落ちるのをただ見ていることしかできず、揺れが収まりかけた時には、床は書籍や雑誌に覆われていました。

幸い、利用者は閲覧スペースに職員2人と図書司書のみで背の高い書架の間には誰もいなかったため、負傷者はなく、利用者の有無を確認した後、すぐに図書室から避難しました。今回の地震では、図書司書が図書室のドアを開けるとほぼ同時に揺れが始まったため、ドアを開けたまま避難経路を確保し、利用者も避難することができましたが、2箇所

ある図書室の出入り口は、どちらも図書室側に開くドアとなっているため、書籍がくずれた場合、ドアの前に本が積み重なり、本の重みでドアの開閉が困難になります。実際に、避難後に図書室に戻った際、避難経路として使用しなかったもう1箇所のドアは、重なりあったハードカバーの医学書の重みで開きませんでした。

II. 図書室の復旧

地震発生日は、他の支援業務を行っていたため図書室の業務は行いませんでした。翌日より、他業務を行いつつ、閲覧スペースの確保を行い、電気が回復してからは、インターネットで入手可能な文献や資料について、情報提供を行える態勢を整えることができました。

実際の図書室内の環境の復旧については、問題点がありました。①整理を行うのに人手が足りないこと。②倒壊しかけている本棚があり、その付近での作業が危険であること。③大きな余震が続いているので、配架した書籍や雑誌がまた倒れる危険があること。以上3点です。

問題点のうち①については、ボランティアの学生が多いときでは10人程、図書室の整理作業を手伝ってくれました。当院の図書室には雑誌用の書架として6段5列の本棚が9連、書籍用の書架として5段4列の本棚が4

SUZUKI Mutsumi

仙台赤十字病院 図書室

連ありますが、毎年整った書架を整理する場合でも、司書一人では1連を片付けるのに約2日かかります。それが、落下した書籍や雑誌を整理するところからとあっては、倍の時間がかかると予想していたのですが、ボランティアの学生の協力のおかげで、書架の片付けは3日でほとんどが終了しました。問題点②の倒壊しかけている本棚も、人手があれば、本棚を支えながら数人で作業をすることができたので、問題なく片付けることが出来ました。3月下旬には、ほとんどの本棚に書籍と雑誌が収まり、通常業務を再開することができました。

しかし、問題点③については、地震の規模も収まっていたため、ブックエンドで細かく押さえる等の処置しか行いませんでした。そのため、その後4月7日に大きな余震が起きた際、閲覧スペースに近い書籍の棚については本震ほどの散乱はなかったものの、本震とは揺れの方向が違ったのか、配架したばかりの雑誌だけでなく、本震のときには倒れなかった雑誌も落下してしまいました。現在は、

本棚の上段の方が雑誌の落下率が高いため、最上段にはなるべく雑誌を配置しないようにしています。配架の方法については、現在も検討中です。

Ⅲ. まとめ

図書室という場所は、本に囲まれた空間です。地震に備え、本が落下しないように工夫する事前の対策も必要ですが、実際に大きな地震が来たときには、書架から書籍や雑誌が落下するものだと考えて、その後の対策を考えることも必要なのではないかと思います。また、震災後、震災復興支援として文献や医療情報へのフリーアクセス等がありましたが、それらの利用方法について、もっと積極的に利用してもらえるように図書室の情報提供の環境を整えなければならなかったのではないかと反省しています。

今回の地震で学んだことを、今後に活かせるように、また他の地域で災害が起こった際には助けとなれるようにしていきたいと思えます。